

CLIPPEDIMAGE= JP358019978A

PAT-NO: JP358019978A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 58019978 A

TITLE: AUTOMATIC TRANSACTION DEVICE

PUBN-DATE: February 5, 1983

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

TSUKUI, SETSUO

HIUGA, YOSHIHARU

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

FUJITSU LTD

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP56119703

APPL-DATE: July 30, 1981

INT-CL (IPC): G06F015/30;G07D009/00

US-CL-CURRENT: 235/379

ABSTRACT:

PURPOSE: To continue transaction, by storing accumulated transaction condition data on a storage medium when a trouble occurs and a pertinent device or another device to read transaction condition data stored on the storage medium.

CONSTITUTION: Bankbook data D<SB>1</SB> read in a reading part 1 is set to a register F<SB>1</SB> and is written in a memory 11. In a bank note counting part 2, data D<SB>2</SB> of the amount of money is set to a register F<SB>2</SB> and is written in the memory 11. Data concerning the transaction advance is always stored in the memory 11 also. When a trouble occurs, said

data D in the memory 11 are sent to a floppy controlling part 15 and are written on a disc 14. After recovery, data D are written in a memory 20. A device controlling part 21 transmits data D to controlling parts 5~8 and sets said data D<SB>1</SB> and etc. to registers F<SB>1</SB> and etc. After that, the device is restarted to continue the interrupted transaction.

COPYRIGHT: (C)1983,JPO&Japio

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A).

昭58—19978

⑤Int. Cl.³
G 06 F 15/30
G 07 D 9/00

識別記号

庁内整理番号
 7737—5B
 7536—3E

④公開 昭和58年(1983)2月5日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑤4 自動取引装置

②特 願 昭56-119703

②出 願 昭56(1981)7月30日

⑫発 明 者 津久井節男
川崎市中原区上小田中1015番地
富士通株式会社内

⑦2発 明 者 日向美晴

川崎市中原区上小田中1015番地
富士通株式会社内

⑦出願人 富士通株式会社

川崎市中原区上小田中1015番地

⑦④代 理 人 弁 理 士 松岡宏四郎

1. 題明の意味

自由取引地位

2. 特許回数の範囲

利用者が操作する機器が組込まれ利用者の操作に
応じ取引を遂行する自動取引装置において、記
帳媒体の記憶容量を記憶装置と、前記装置の動作
に伴う取引履歴データを蓄える手段と、装置の時
刻発生を検知する手段と、前記記憶媒体から読取
られたデータを印刷する手段とを備え、時刻発生
を検知した際、前記蓄えられた取引履歴データを
前記記憶媒体に記憶せしめ、装置が除去された当
該装置もしくは他の装置に前記記憶媒体内の取引
履歴データを読取らせるとにより取引を履歴し
て再読せしめることを特徴とする自動取引装置。

3. 要明の弊を正明

本局明は四谷御旧平段を伯父九自助取引該口に
目する。

金口座で取用されている自動取引（預金、支払など）債権において、その取引の実行中に障害

を発生した場合、該窓口を監視するモニタ窓口にて障害発生が提示される。これを見つけた窓口の管理者は、障害を発生した自動取引窓口内の管理パネル（障害発生状況を示す）のデータを図べ、障害の程度が大きいときには、利用行（顧客）に他の自動取引窓口で取引を再開して貰うことになる。この場合、従来の方式では始めから取引をやり直すことになり、また強い障害の場合には該窓口で取引を再開することになる。中断された取引を継続して再開するためには、管理者が障害発生直前の取引状況を顧客から詳しく聞き出し、正確な該窓口の状態を、障害発生直前の状態に復するように、条件を設定せねばならない欠点があった。

本邦国は上記の欠点を解決するためになされたもので、障害発生後の取引再開を容易とする自動取引口座の提供を目的とする。

本発明は、過剰取戻額、カードリミット、現金支払額、預金額等、利用者が操作する装置が組み立てられ利用者の操作に基いた取引を自動的に進行する自動取引装置において、記憶媒体の読み書きを配

債口座と、前記入出力装置の動作に伴う取引情報データを与える手段と、口座の口座発生を通知する手段と、前記口座発生体から読取られたデータを判別する手段とを備え、口座発生を通知した際、前記与えられた取引情報データを前記口座発生体に記憶せしめ、口座が除去された当該口座もしくは他の口座に前記口座発生体の取引情報データを読取らせることにより取引を継続して再開せしめることを特徴とする自動取引装置である。

以下、本発明を図面によって説明する。図1図は本発明の一実施例を説明するフローチャート、図2図は本発明の一実施例を説明するブロック図であり、1は読取部、2は残高計算部、3はプリンタ、4はキー入力受付部、5、6、7、8は債口座、9は借入口座、10、18は借込部、11、20はメモリ、12、19は貸出部、13はエラー検出部、14はフロッピーディスク、15はフロッピー制御部、16は判別部、17はゲート部、21は債口座、A、Bは接点、C₁、C₂、C₃、C₄、Gは債口座、Dは取引情報データ、D₁、D₂、D₃、D₄はデータ、Eはエラー番号、F₁、F₂、F₃、F₄はレジスタ、R₁、R₂は貸出番号、W₁、W₂は借込番号、W₃は借込部、W₄は借込部である。図1図において、自動取引装置の利用者は（預金の例）、

① 取引ボタンを押下する。
② 通帳を入力する。
③ 残高を入力する。

これらの入力によるデータがプロセッサへ伝送されて、所要データが返送され、図示されたのち、

④ 残高が収納される。
⑤ 入金データその他が通帳に印字される。
再びこれらのデータがプロセッサへ伝送され、これに対し所要データが返送されてくる。

⑥ 通帳印字中に口座発生
⑦ 上記①～⑤までの例えば、親金を放出する前である借入を示すデータ、セントロから支払い許可番号が有ったか否かを示すデータ、支払うべき金額を示すデータ等の取引状況データをフロッピーディスクにSAVEする。

- ⑧ 口座が正しいときは他の債口座にフロッピーディスクを移す。
- ⑨ 口座が正しいときは当該債口座を継続して使用し、通帳を挿入する。
- ⑩ 通帳への印字動作を再開
- ⑪ 通帳を挿出して取引を終了する。

図2図において、読取部1に通帳が送られると、読取られたデータD₁（顧客名、通帳番号、判別コードなど）は、レジスタF₁にセットされる。借入判別部9は借込番号W₁を読み、レジスタF₂内のデータD₁をメモリ11に格納する。次に利用者が預金すべき残高を入力すると残高計算部2は残高を算出して、その計算値（金額）D₂をレジスタF₃にセットする。借入判別部9は再び借込番号W₁を読み、このデータD₂をメモリ11に格納する。同時に通帳に印字されるデータD₃及びキー入力部4から入力されたデータD₄も取引の進行と共にメモリ11に格納される。従ってメモリ11には取引の進行に伴うデータが格納されることになる。図1図で説明したように取引の途中で、債口座の口座

が発生すると、エラー検出部13はエラー番号Eを出力し、読取番号R₁を発するので、メモリ11内の取引情報データDは読取部12により読出されて、フロッピー制御部15へ送られる。借込部W₁より、この取引情報データDは接点Aを経てフロッピーディスク14に格納される。

口座発生をモニターで知った債口座の管理者は、債口座の状態を示す表示ボード（図示していない）により口座発生所を調べて確認する。借入部、借入部はフロッピー制御部15を起動させて、フロッピーディスク14内のデータを入力せしめる。読取部17により読取られたデータDは、判別部16により判別され、取引情報データであることが確認されると、借込部18を経てメモリ20に格納される。債口座判別部21は貸出番号R₁を発してメモリ20内のデータDを出力して、これを判別部5、6、7及び8へ送出する。一方、債口座判別部21は判別番号C₁、C₂、C₃及びC₄を発するので、取引情報データDのうち、データD₁がレジスタF₁に、データD₂がレジスタF₂に、データD₃がレジ

スタF₁に、そしてデータD₁がレジスタF₁にそれぞれセットされる。然るのち取引を開始せれば、中断された取引を継続して再開することができる。なお口座が正しい場合、管理者はフロッピーディスク14を口座から取り外し、これを他の正常な自動取引機に挿入することにより、上述と同様に取引の継続再開を行うことができる。

以上のように本発明は、障害の発生により中断された取引を、障害発生直前の状態を再現せしめることにより、取引の継続再開を可能とするものであり、利用者に多大の便利を与えるものである。

4. 図面の簡単な説明

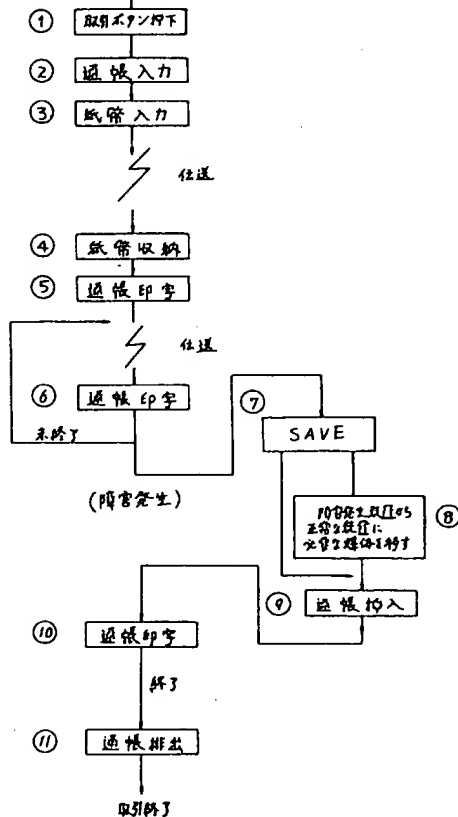
第1図は本発明の一実施例を説明するフローチャート、第2図は本発明の一実施例を説明するブロック図であり、図中に用いた符号は次の通りである。

1は取引部、2は紙幣計数部、3はプリンタ、4はキー入力受付部、5、6、7、8は制御部、9は情報制御部、10、18は送込部、11、20はメモリ、12、19は読出部、13はエラー検出部、

14はフロッピーディスク、15はフロッピー制御部、16は判別部、17はゲート部、21は装置制御部、A、Bは接点、C₁、C₂、C₃、C₄は制御信号、Dは取引情報データ、D₁、D₂、D₃、D₄はデータ、Eはエラー信号、F₁、F₂、F₃、F₄はレジスタ、R₁、R₂は読出信号、W₁、W₂は送込信号、Wは送込部、rは読出部を示す。

代理人 弁理士 松岡 宏四郎

第1図 取引開始



第2図

